

見通しについては、厳しい状況だと思っている。公園の長寿命化として、当初2年ということから採択を受けたが、市が要望している補助額をつけていただけない状況である。

昨年は地元の国会議員、県議会議員にも強力に働きかけ、補正により事業費ベースで2千万円をつけていただいた。

今後とも地元の国会議員、県議会議員を含め、関係各所にアプローチを強め、何とか国からの補助率、金額を上げてもらえるよう努力していきたいと考えている。

〔質疑〕今回の決算を踏まえ、来年度予算編成にどのように生かそうと考えているのか伺う。

〔答弁〕行政の会計年度は単年度であるが、行政の継続性は非常に重要である。

平成30年度の残りの期間、そして平成31年度をどのように方針を立てていくのかということだが、決算議会では非常に大きな役割と思っている。

本市の財政状況は、ここ数年、

他会計への繰り出しが非常に多くなっていることから、単年度で黒字を目指す方向性をつかりと位置づけられるような今後の方針が必要と考えている。

◎平成29年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定について

〔質疑〕下水道事業において決算額を見ると、当初予算に対し補正予算による増減が大きい。が、どのような原因があったのか伺う。

〔答弁〕下水道事業会計は一般会計からの繰入金について、どうしても運転資金として運用せざるを得ない現状があるため、このところに大きな要因があると考えている。

今後は、より精査し計上するとともに、一時借入金等の利用も検討していきたいと考えている。

〔質疑〕本市の下水道事業における中長期的な経営戦略ビジョンを立てる考えがあるのか

伺う。

〔答弁〕中長期的なビジョンは必要だと思っている。

本市の財政は基金に依存した体質になっていることから、他会計への繰り出しも含め、下水道だけではなく、全般的な市の財政状況について、中長期的な計画は今後、必要になってくると考えている。

◎あつせんの申立てについて

〔質疑〕こちらの納得のいく和解案が示されなかった場合、今後、東京電力に対し、例えば訴訟などの法的措置に訴えることも視野に入れていいのか伺う。

〔答弁〕この和解案については拘束力がないため、それぞれが拒否することも考えられる。和解が成立しなかった場合、和解仲介手続は終了するが、これまでの主張を変更したり、新たな証拠を提示し、今回と同様、再度申立てはできることとなっている。

また、民事訴訟を提起することも可能であるため、市としてはこれからも市の言い分をしつ

かりと粘り強く東京電力及び原子力損害賠償紛争解決センターに伝えていきながら、民事訴訟なども視野に入れ検討していきたいと考えている。

◎平成30年度白石市一般会計補正予算(第2号)

〔質疑〕住宅費においてスクールゾーン内危険ブロック塀等除却事業補助金が計上されているが、スクールゾーン内に限らず、対象地域を全地域に拡充した検討はなされたのか。

〔答弁〕平成30年6月に発生した大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故を受け、宮城県では市町村担当者会議を開催し、危険ブロック塀等除却事業補助金制度の制定状況について情報共有を図っている。

今後は、スクールゾーン以外についてもしっかりと対応するように検討していく。

〔質疑〕農産物直売所建設基金繰入金について、補正予算で300万円を繰り入れているが、その用途を伺う。

〔答弁〕具体的な内容については、農産物等販売施設の運営事業者である小十郎まちづくりネットワークにおいて、強い目的意識と理念を持った魅力ある販売施設を目指すため、管理運営に必要な体制を整備することに加え、販売戦略などの策定、農産物出荷者の確保や生産管理体制の確立、チラシの作成、オープンセミナーや年間イベント計画など、速やかに供用開始に向けた準備が必要となることから繰り入れたものである。

◎農産物等販売施設整備工事請負契約の締結について

〔質疑〕工事の開始及び完成予定時期を伺う。

〔答弁〕工事の着手については、本議案を認めていただいた以降に、現場担当と詳細を詰めていきたいと考えている。

工期については、平成31年3月15日までと定めている。